

大城ひかるのベトナム



通信

- 6 -

シンチャオ
(Xin chào)
おきなわ



下宿から徒歩3分と近く週に1回、果物
を買いに行く Hoang Hoa Tham 市場
(筆者撮影)

ベトナムに住んでいると、石垣島で過ごした子供時代を急に思い出すことがよくあります。大抵、そのきっかけとなるのが果物。市場に行く

ちゆに身近なパイナップルやマンゴー、パイナップルなどが並んでいるのをご存知の方も多いと思います。

私の最初のフラッシュバックは「釈迦頭（しゃかとう）」でした。もしかしたら馴染みのない方がいらつしやるかもしれませんが、お釈迦様のヘアスタイルに似ていることから名づけられた果物です。長年口にしたことがなかったため、市場で釈迦頭を見た時は本当に驚き、小学生の記憶がどっと押し寄せてきました。

当時、私は母方の祖父母の家の裏手に住んでいて、祖父の庭に釈迦頭の木がありました。1本し

市場の果物見て石垣島想う

かなかったので、それほど実はありません。私が大好きなのを知っていた祖父は、いつも私のために取っておいて、「みんなには内緒」とこっそり渡してくれました。昨年帰沖した際、久しぶりに従兄妹が集まり、この話をしたら全員が「俺も」「私も」と言うではないですか。祖父は自分のためにだけ実を取っておいてくれたと口をそろえて言うのです。長く教職にあつた祖父の、優しいだけではない、一面を見た気がしました。しかし、母によると、母や伯母たちも曾祖母に同じことをされたと言いますから、我が家伝統の懐柔術なのかもしれません。

市場で柿を見た時も沖縄より暑いベトナムでなぜと驚くと同時に、小学5年に記憶が飛びました。その頃、石垣島本土の果物が入ってくることは少なく、梨もお盆にだけ食べられる上級果物でした。メロンは凶鑑の中でしか見たことがありません。特産のパイナップルですら本土への輸出用のため、値段が高かったと記憶しています。そんな時代に大阪に住む父方の叔母が送ってくれた柿を食べた時には、「世の中にこんなにおいしい果物があったのか」と衝撃を受けたものです。

す。家にあつたバンシルーは中が濃いピンクで、甘い香りを放っていました。ベトナムのバンシルーは香りが薄いようです。赤くならない白のバンシルーがあるのは、こちらで初めて知りました。皮を剥かずには辛料が混じった塩につけて食べます。私が子どもの頃に聞いた「バンシルーを食べすぎると便秘になる」というのは、これも聞いたことがないそうです。

このように市場に行く

と、沖縄のことがいろいろと思ひ出されます。一方、前述の柿のように、熱帯では育たない果物も豊富で、それは1500m級の高地があるからです。次回は果物、野菜、花卉の一大産地であり、ベトナムの歴史にも深く関係がある高地地方についてご紹介します。